

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価（案）（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
30-5	道路構造及び空洞特性に適応した陥没危険度評価と合理的路面下空洞対策についての研究開発	東京大学 教授 桑野 玲子	B
<p><研究の概要></p> <p>路面下空洞の生成要因や拡大過程・陥没危険度を解明し、併せて空洞探査の高度化と空洞特性に応じた適切な補修方法を開発することにより、道路管理者に発信し得る「調査計画・空洞探査・空洞補修に係る一連の合理的プロセス」、即ち道路陥没予防ソリューションを開発する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>道路陥没・路面下空洞の発生メカニズムの解明、危険度評価法の高度化、空洞充填剤の開発着手など、研究開発は計画通り順調に進んでいるが、開発した危険度評価の実地での利活用の仕方の提示について課題があることから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究において高度化される路面下空洞の危険度評価について、現場での利活用も想定し、体系的に示していただきたい。 2. 埋設物などの局所的な要因が大きく影響する空洞発生について、空洞ポテンシャルマップの有効性や必要性が現段階では不明確である。ポテンシャルマップの作成を主要研究事項とする場合は、実務の中でどのように活用しうるのかの観点から必要に応じて改善のうえで進めるとともに、その有効性を明確にしていきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第36回新道路技術会議において審議したものである。